

第15回鳥栖市総合教育会議 議事録

会 議 名	第15回鳥栖市総合教育会議
日 時	令和3年7月14日(水) 開会 午前10時30分 閉会 午前11時30分
会 場	市役所3階第1委員会室
公 開 ・ 非 公 開	公開
出 席 者	構成員：橋本市長、天野教育長、古澤教育委員、吉原教育委員、 戸田教育委員、副田教育委員 事務局：小柳教育部長 青木教育部次長兼教育総務課長 立石教育総務課長補佐兼総務係長 説明員：中島学校教育課長 日吉学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事 長野学校教育課インクルーシブ教育推進係長 松隈生涯学習課長兼図書館長 辻教育総務課教育支援係長
傍 聴	0人
協 議 事 項	◆教育大綱の改定について
報 告 事 項	◆GIGAスクールの状況
発 言 者	内 容
橋本市長	<p>こんにちは。総合教育会議ということで、お集まりいただきましてありがとうございます。協議事項は「教育大綱の改定について」です。</p> <p>早速、事務局の説明をいただいて、ご議論いただければと思います。よろしくお願いします。</p>
青木教育部次長兼教育 総務課長 立石教育総務課長補佐 兼総務係長	(資料に基づき説明)
橋本市長	<p>第7次総合計画に沿って教育大綱についても修正を加えていくということで、そう大きな修正ではございません。1番大きなところは、「SDGs」の考え方を盛り込んだということのようでございます。</p> <p>教育大綱の改定案について、ご意見を賜ればと思っております。何でも結構ですので、ご指摘があればよろしくお願いいたします。</p> <p>大変細かいところで申し訳ないですが、2ページにある3番の教育基本理念のところ「人財」というのは財産の財を使ってありま</p>

	すけど、学校教育としては、材料の材でなくてよろしいでしょうか。教育大綱ということで教育の大元となるので、本来使わない漢字を使っていいのかというのがちょっと気になっているんですけど、そこはいかがでしょうか。ほかに学校の先生の立場として、ご意見いただければと思います。多分、政治的には使用するかと思いますが。
天野教育長	市長が言われたように、学校教育が関係する場合は、材料の材を使用します。政治的に大きく捉えて、この財を使用することもあります。そういう意味では、やっぱり材料の材のほうがいいのかと思います。以上です。
戸田教育委員	小さな点なんですけれども、3ページの教育方針1の冒頭「幼児教育から義務教育の期間は」というところで、今回「幼児教育から」という文言を加えていただいているんですけれども、その意図があれば教えていただきたいです。先日の報道で、文部科学省が小学校に接続しやすくするために5歳児への教育を検討しているというのがあったんですけれども、そういった中、様々な思いがあるのかなと思います。すみませんが、その背景を教えてくださいませんか。
中島学校教育課長	背景となるか分かりませんが、今回学校教育としてインクルーシブ教育というのを強く打ち出しているところがございます。その中でも、幼児期から学齢期、青年期ということで、切れ目のない一貫した支援を行うということが大切であると捉えているところでございます。現在でも、例えば義務教育に入る前のお子さんについては、こども育成課等が関わって、連携を図りながら行っているところではございます。そういったところも含めて、義務教育だけではなくて、さらに切れ目のない支援を行っていきたいという思いから「幼児教育から」という言葉を付け加えたところでございます。
戸田教育委員	ありがとうございます。そもそも、この教育大綱の対象年齢は、義務教育期間だけではなくて、就学前からということによかったのでしょうか。
天野教育長	対象は小学生からです。
橋本市長	この幼児教育の対象年齢は、0歳児からなのか、3歳児からなのかその概念はどうなのでしょう。
小柳教育部長	今回「幼児教育から」という文言を加えた経過については、先ほど中島課長が報告いたしましたけれども、鳥栖市では「幼保小の連携事業」を行っておりますので、その部分を加えたらどうかということで「幼児教育から」という表現にしておりました。私には、その「幼保小の連携」という部分の表記が、この言葉ではわかりにくいというように聞こえましたので、その「幼保小の連携」を何ら

	かの違う表現で文中に加えて「幼児教育から」という部分を削除するというやり方もあるのではないかと、戸田委員のご意見を聞いて考えているところでございます。
橋本市長	はい、どうぞ。
古澤教育委員	「幼保小の連携」というのは、鳥栖市に限らず多くの自治体で、随分前から取り組んでいることですよ。それですので、鳥栖市の保護者の方には、一定の認知はされてるんじゃないかと思いますが、これからも「幼保小の連携」というのは、特に重要になってきますので、色々な機会を通じて周知するという事で加えられているんだろうなと推測をしておりました。
天野教育長	確かに、今言われたように「幼保小の連携」ということで、色々な市町において9年間プラス就学前3年間の12年間を一貫して育てるということをやっているところがあります。それから、中には高校までというところもあります。ここで「幼児教育から」という文言にしているのが、非常に誤解を招くんですけれども、どうしても学校教育の場合は、市町によっては公立幼稚園があれば確実に加えていきますけど、鳥栖市にはそれが無いので、鳥栖市の方針に「幼児教育から」と表記すると、市長が言われたように0歳からの幼児教育もあるので、この「幼児教育から」という文言は外したほうがいいのかという気がしております。以上です。
橋本市長	副田委員、吉原委員はいかがですか。
吉原教育委員	教育長からもお話があったように、この「幼児教育から」という文言は、個人的にはなくてもいいのかなと思います。この義務教育の期間はというところから始まっていいのかなと思います。
副田教育委員	今すぐには思い付きませんが、頭の中では命はずっと繋がっているからなと思いながら、どのような表現があるんだろうかと考えていたところでした。
天野教育長	「幼児教育から」という文言をもう少し吟味して検討してみたいと思います。そして、ここでは「幼保小の連携」との絡みで加えたということであるんですけど、そのような捉え方をされてないということもあるということですので、そのところについては検討課題にさせていただけたらと思いますがいかがでしょうか。
橋本市長	はい、ありがとうございます。ほかにご意見がございましたらお願いします。
吉原教育委員	教育方針についてですが、生涯にわたり自ら学び続ける学習環境の実現という大きなテーマのもとで、この下の文言の中で「一人一人の自主的な学びを支援」というところが、今回は「一人一人の主體的な学びを支援」ということで、大きなテーマが自ら学び続ける

	<p>ということの中において、この「自主的」を「主体的」という言葉に変えられた趣旨を詳しくご説明いただけたらと思います。</p>
天野教育長	<p>この「主体的」という文言にしたのは、私の意向です。「主体的」は、自分の意思や判断によって行動するという意味で、「自主的」よりも行動のレベルが上でして、主体的に判断し多様な人々と協働して、新たな価値を求めていくそういった人材を育成したいという強い思いから「主体的」という言葉に変えました。以上です。</p>
橋本市長	<p>今の説明でよろしいですか。ほかにございませんでしょうか。</p> <p>あと、事務局側で、ここだけは皆さんのご意見を確認しておきたいというようなことはございますか。特によろしいでしょうか。</p> <p>それでは、今ご指摘をいただいたところを確認します。まず2ページ目の3番の「人財」の漢字ですが、これは本来の「人材」という漢字に改めるということによろしいでしょうか。はい。通常使われる「人材」ということでお願いいたします。</p> <p>その次の3ページの4番の「幼児教育から」という文言ですけれども、事務局側では「幼保小の連携」を訴えたいということでございました。また、教育長からは、あえて「幼児教育から」の文言を加えなくてもいいという考えも示していただきましたけれど、この表現につきましては、教育長のほうで整理をしていただくことにしたいと思います。</p> <p>また、その次の教育方針の2の「主体的な学び」ということで、ここはより強く自ら進んでやるということの意思ということで、これはこのままということでございます。</p> <p>この教育大綱の改定について、事務局側で整理をしていただいでよしとするということによろしいでしょうか。（教育委員より「異議なし」の発言あり。）はい、ありがとうございます。教育大綱の改定につきましては、それで進めてまいりたいと思います。ありがとうございます。</p> <p>次のGIGAスクールについて、状況報告をお願いいたします。</p>
日吉学校教育課参事兼 課長補佐兼指導主事	<p>(映像による資料に基づき説明)</p>
橋本市長	<p>GIGAスクールということで、1人1台端末が配られて、その活用が始まっております。まだ始まったばかりで、試行錯誤の段階でございますが、今後に向けて、何か感想なりご指摘をいただけたら有り難いと思います。はい、どうぞ。</p>
古澤教育委員	<p>今の説明で、タブレット型端末を活用しての事業の効果というのは伝わってきました。ただ先生方は、今までも、そういったものがなくても、しっかりと子どもに伝わるように、分かるように、考え</p>

	<p>させるように工夫した授業をされてきたと思います。そういった中で、この端末を活用して、目からうろこじゃないですけど、これはすばらしいと先生方が感じられる点が、もし日吉参事のところまで届いているのであれば教えてください。</p>
<p>日吉学校教育課参事兼 課長補佐兼指導主事</p>	<p>今おっしゃっていただいたようなことについては、使い慣れていない人たちが、これは使ってよかったという段階でのお話だと思いますので、まだ残念ながら、その段階の話は報告として上がっておりません。今はまだ、スキルの高い人たちを中心に、やれるところからやっていくというようなことで進めているような状況です。</p> <p>これがそれに当たるかどうかは分かりませんが、学校訪問をする中で、こんな考え方になればいいんだなと思ったことが1点あります。これは基里中学校1年生での状況です。ICT機器の操作が苦手な先生が、まずは使ってみるということで始められるという授業の様子を見に行きました。その時、ICT支援員もそこについて、端末活用の支援をしていただいていたんですが、やはり子どもたちの中に得意な子がいるんですね。子どもたちが「先生ここを触ればいいみたいですよ。」とか「こうみたいですよ。」というのを言ってくれる。先生は「ああそうね。そうらしいよ。」というように「今何とかさんが言ってくれたから、まずそこを触ればいいらしいよ。」とおっしゃっている様子を見て、やはり誰の力でもいから借りながら、やっていくことが大事だということです。</p> <p>中学校3年生の授業に至っては、もうまさに支援員みたいな動きをしている子どもがいて、後から、校長先生に聞いたんですけど、このタブレットが入ったことで授業の度に生き生きと活躍をして、そして周りからも何かと頼りにされていることで、非常に自己肯定感が高まっているような様子だということなんです。</p> <p>そういうふうに、子どもたちの活躍の場面という視点で見ても、それは予想外のことでありましたので、よかった点かなんか思っているところです。もう間もなく、あと2学期ぐらいには、今言っていたような教師の声が拾えるのではないかなんか思っております。その際には、また報告をさせていただきます。</p>
<p>古澤教育委員</p>	<p>一部開き直りとも聞こえなくもなかったんですが、それは素晴らしいことだと思います。「子どもに教わる」という言葉もありますけど、それでも仲よく楽しくやっているシーンが目につくような気がしていいことだと思っております。</p>
<p>戸田教育委員</p>	<p>先ほどの動画で、すごく効果的な使い方をしているなど、端末がなかったときには出来なかったことが実現出来てるんだなということを見せていただきました。それで思ったこととしては、凄く上手</p>

	<p>く使ってるというハイレベルの話でなくて、色々なレベルがあると思いますが、こんなときにこうすればいいみたいないい使い方というのを、先生方同士での情報交換は出来ているのでしょうか。例えば同じ単元のこの教科はこんなふうにしたらいいよみたいに、どんなレベルで情報共有出来ているのか、そういう先生方同士なのか、もっと大がかりなその教材を作っている側なのか、全国的に同じように先生方が取り組まれているので、全国的な情報共有なのか色々なレベルでの情報共有はあると思うんですけども、その効果的な使い方を先生方がどうやって情報共有しているのかを教えてくださいませんか。</p>
<p>日吉学校教育課参事兼 課長補佐兼指導主事</p>	<p>今各学校で、主に学年の中で情報交換しております。そして、これは学年を超えても紹介したいというような内容については、各学校の校内研究の中で情報交換をしているところです。また、例えば田代中学校区では、小中連携の校内研究の中でリモート部会というのが立ち上がっておりますので、それで実際に校内研究のリモート会議を実施したりしております。</p> <p>また、今年度の5月に実施いたしました第1回プロジェクト会議の中では、その推進リーダーから「校務用パソコンで使った教材を、タブレット型端末で使うときに、ちょっと工夫が要って、そのまま使えない。」という意見がありました。それで、タブレット型端末で作成したものをシェアするために、まずはこの推進リーダーでグループを作って、作成したものを取りためていこうということで始めているところです。少しずつやれるところから、やれる規模、やれる範囲内で、やっていきたいと考えております。ご意見ありがとうございます。</p>
<p>吉原教育委員</p>	<p>G I G Aスクールも始まったばかりで、今見せていただいた動画で進捗状況がわかりました。今戸田委員も言ったように「Yahoo!知恵袋」というのがありますけれども、困ったときに書き込んだら、知っている人が書き込みをするというように、先生たちの間で課題などを共有できるようなデータベースを増やして行って、そういう知恵をますますつけて、教育に活かしていただけたらと思います。以上です。</p>
<p>副田教育委員</p>	<p>感心することばかりでした。うなずいてばかりなんですけど、頭の中で、これが「コミュニティ・スクール」に影響して行って、その地域の方が学校に出向かなくても、例えばリモートでみそづくりを子どもたちとするとか、昔遊びをそこで伝えるとか、そういったことが出来るようになれば、足が不自由な方が地域にいらっしやっただとしても、そうやってさらに繋がっていくんだというふうに思い</p>

	ながら拝見させていただきました。
天野教育長	<p>今日は映像を見ていただきましたけれども、ほとんどが若葉小学校のものです。市内12校中で一番進んでいるのは、若葉小学校です。今回学校訪問で7校を回りましたが、学校に対して、なるべくタブレット型端末を使ってくださいというお願いをしました。要は、学校訪問時に使わないなら、日頃の授業で使うのかという思いもありまして、電子黒板導入の際にもそうでしたが、どの学校でも努力して使おうとしています。使ったことが逆にマイナスにはなっていないんですけれども、一生懸命に先生方もタブレット型端末をどうにかしてマスターして子どもたちのために使おうとしている状況は見えてきて、非常に良かったと思います。</p> <p>今は、調べ学習、低学年での観察で写真を撮る、それからプレゼンのためにまとめるといった活用をしている状況です。それから昨日は、先ほど日吉参事がお話ししましたように、テストのチェックをする、アンケートを書く、評価をする、そしてそれを先生がすぐにその場でまとめる、それからちょっとレベル高くなると、グループの中でチャットをしながらまとめていくとか、そういうことも出ています。そういったことで、若葉小学校はレベルの高いところにあるんですけれども、こういう考え方をほかの学校にも少しずつ広げていきたいと思っています。</p> <p>通常時の1人1台タブレット型端末の学校での活用はいいんですけれども、基山町では、夏休み期間にタブレット型端末を自宅に持ち帰らせて、夏休みの宿題をそれでさせますということでしたので、そういうことを考えると持ち帰り学習をどうするのか、それからまた来るかも分からない非常時におけるオンライン学習に向けてどうするのか、今後はそういったところがこれからのタブレット型端末の活用での大きな課題だと思っています。しかしいずれにしても、個別最適化と共同学習の切り札ということでしっかりと成果を上げていきたいと思っています。以上でございます。</p>
橋本市長	一つ質問です。先ほど書道の漢字の書き方の授業でタブレット型端末を使って「旅行」と書いていましたけど、あれを子どもたちは手で書くんですか、それともタブレット上で何かをするのでしょうか。見ているだけでしょうか。
日吉学校教育課参事兼 課長補佐兼指導主事	この漢字は、通常の紙に筆で書いています。
橋本市長	そこはある意味、手で覚えるところもあるので、そこが見ているだけだと残らないんじゃないかと、リンクを上手くしていただく必要があると思ったので伺いました。

本当に様々工夫をしていただくと、これからどんどん進化していくし、そこが拡散されていって、より工夫をした使い方をしていただければと思っています。

先ほど、端末の更新の話が出ておりましたが、佐賀県市長会としては、国に端末の更新についても資金的な補助をお願いしたいと思っています。ただ、会計については、こちらで一定カバーしなければならないことも出てきます。例えば、武雄市では、小学校から中学校を3学年ずつ区切って、毎年3学年分ずつ更新していって、何年か経つと全部替わってるといような基金の積み方をしているということです。ファンドで苦労は多いというふうに言われておりました。だから、我々なりのスムーズな運営・活用についても考えていく必要があるかなと思っています。ちょっと付言をいたしました。

それでは、今日用意しておりました議題は以上でございます。会議はこれで終わってよろしいでしょうか。繰り返しになりますけれども、教育大綱の改定については、教育長に最終的な調整をしていただいて、最終案を委員の皆さんにもお届けするというごお願いしたいと思います。GIGAスクールについては、今後も定点観測じゃございませんけど、経過報告をしていただきつつ、またそれぞれに支援出来るところを模索しながらやっていきたいと思えます。特に、委員の皆さんからはよろしいでしょうか。事務局もよろしいですか。長時間にわたってありがとうございました。